

2014年7月2日 全5頁

6月日銀短観から読み解く企業の資金繰り

引き続き堅調な企業金融関連 DI

金融調査部 兼 パブリック・ポリシー・チーム
研究員 太田珠美

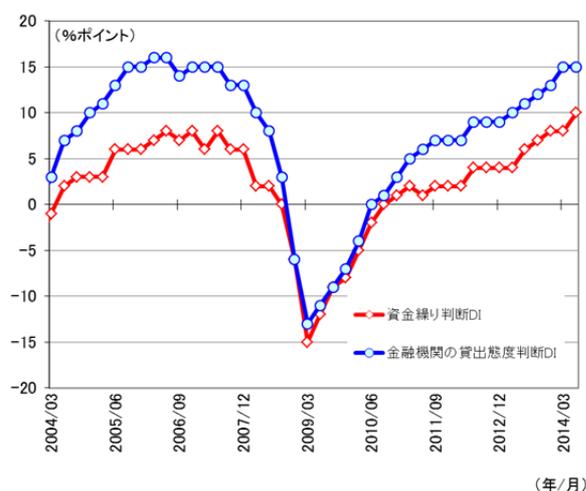
[要約]

- 日本銀行から全国企業短期経済観測調査(短観)の2014年6月調査結果が発表された。企業金融関連では、資金繰り判断DIは前回調査から2%pt高い10%pt、金融機関の貸出態度判断DIは前回調査と同じ15%ptとなった。業種や企業規模にかかわらず、全般的に改善がみられる。業況判断は悪化したものの、2014年度の売上・収益計画が前回調査時より上方修正されており、資金繰りに対しても楽観的な見方が広がっているものとみられる。
- 借入金利水準判断DIは前回調査から1%pt高い-6%pt(最近)となった。足元の借入金利は低水準で推移しており、先行き判断も前回調査から2%pt低下していることから、企業としても先行き3ヶ月は引き続き借入金利が低水準で推移するとみているようだ。
- 金融機関の貸出し余力が大きいことや、国内の貸出金利水準が低いことに加え、海外においても金利水準が低いことから、企業は国内外で資金調達しやすい環境にある。今回の日銀短観では設備投資計画が上方修正されており、設備投資向けの貸出の増加が期待される。

企業の資金繰り状況は引き続き改善

日本銀行（以下、日銀）から全国企業短期経済観測調査（以下、短観）の2014年6月調査の結果が発表された。資金繰り判断DIは前回の2014年3月調査（以下、前回調査）より2%pt高い10%pt、金融機関の貸出態度判断DIは前回調査と同じ15%ptとなった（図表1）。資金繰り判断DIの水準は調査対象企業の見直しを行った2004年3月調査以降、最も高い水準である¹。金融機関の貸出態度判断DIは前回同様、2007年6月調査以来の高水準を維持した。借入金利水準判断DIに関しては前回調査から1%pt高い-6%pt（最近）となった。先行き判断は前回調査から2%pt低い2%ptであり、企業は先行き3ヶ月、借入金利が低水準で推移するとみているようだ（図表2）。

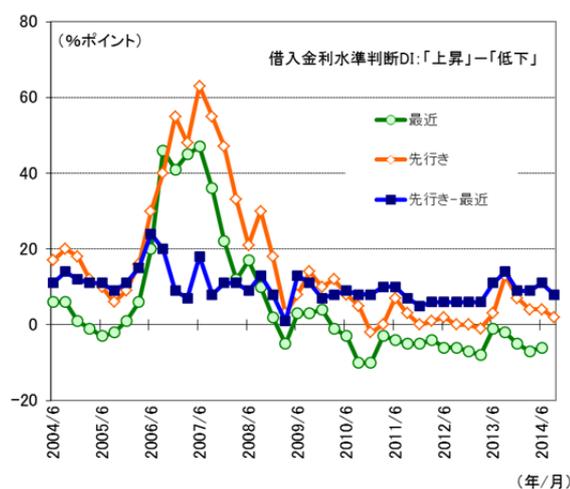
図表1 資金繰り判断DI・
金融機関の貸出態度判断DIの推移



（注）全規模・全産業の値。年月は調査年月。資金繰り判断DIは資金繰りが「楽である」と回答した社数の構成比（%）から、「苦しい」と回答した社数の構成比（%）を減じたもの。金融機関の貸出態度判断DIは金融機関の貸出態度に関して「緩い」と回答した社数の構成比（%）から「厳しい」と回答した社数の構成比（%）を減じたもの。

（出所）日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

図表2 借入金利水準判断DIの推移



（注1）全規模・全産業の値。年月は調査年月。借入金利水準判断DIは借入金利について「（3ヶ月前と比べた）最近（回答時点）の変化」および「先行き（3ヶ月後まで）の変化」について、「上昇」と回答した社数の構成比（%）から、「低下」と回答した社数の構成比（%）を減じたもの。数値が高いほど「借入金利が上昇した（する）」と考えている企業が多いことを意味する。

（注2）「先行き」は3ヶ月後の予想であるため、グラフでは先行表記している（「先行き-最近」も先行表記）。例えば、2014年6月調査の「先行き」および「先行き-最近」は、上図では2014年9月にプロットされている。

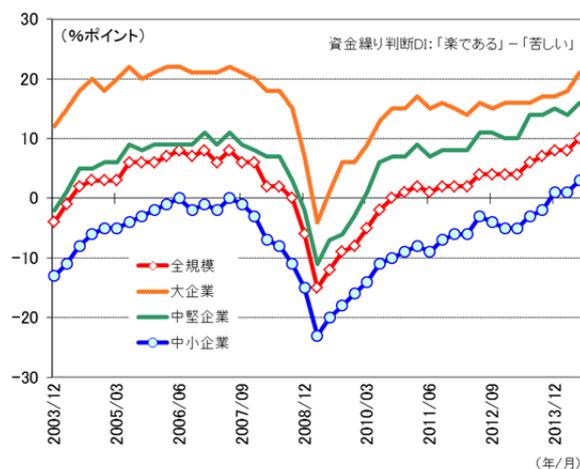
（出所）日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

今回、資金繰り判断については、企業規模・産業による大きな違いはみられなかった（図表3・4）。大企業および中小企業の金融機関の貸出態度判断DIは前回調査から2%pt高く、貸出姿勢が積極化していたことが窺えた（図表5）。ただし、全規模・全業種で見た場合の金融機

¹ 2003年12月調査以前と2004年3月調査以降の計数は連続しないため単純な比較はできないが、資金繰り判断DIが10%ptを超えたのは1990年9月調査以来である。

関の貸出態度判断 DI は前回調査と同水準であるため、資金繰り判断 DI の改善は、金融機関の貸出姿勢が積極化したことだけでなく、売上・収益計画が前回調査時より上方修正されたことが大きく影響しているとみられる。つまり、本業の見通しが改善したことにより、資金繰りに対する安心感が強まったということである。

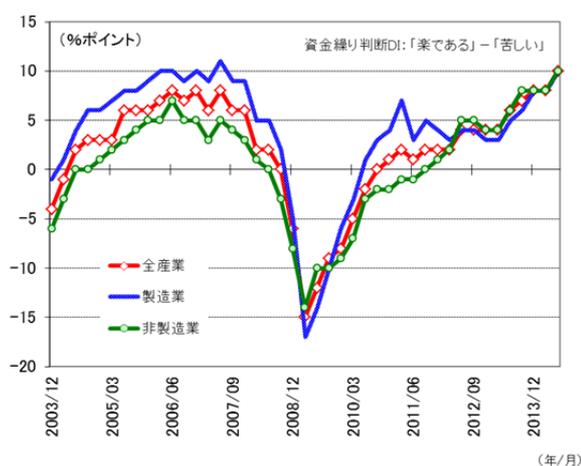
図表3 資金繰り判断 DI (企業規模別)



(注) 全産業の数値。

(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

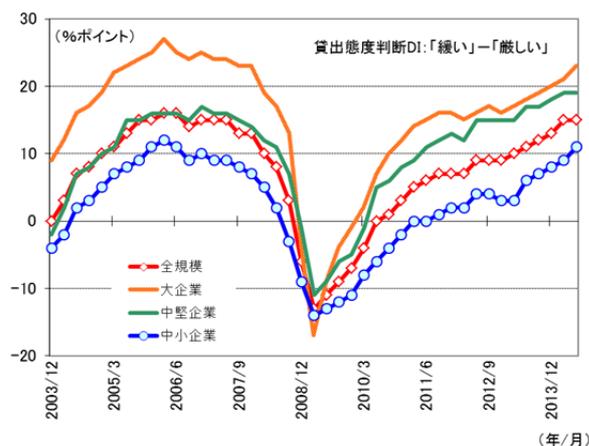
図表4 資金繰り判断 DI (業種別)



(注) 全規模の数値。

(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

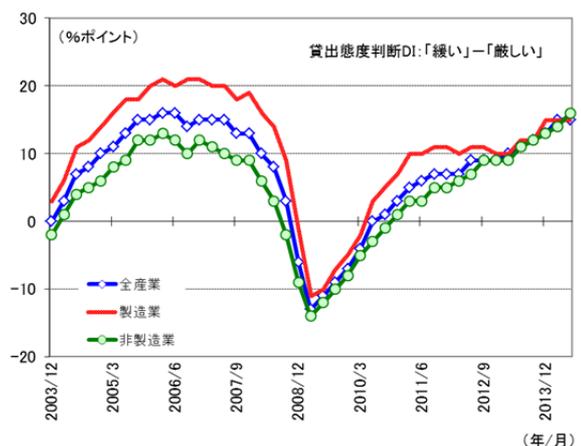
図表5 金融機関の貸出態度判断 DI (企業規模別)



(注) 全産業の数値。

(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

図表6 金融機関の貸出態度判断 DI (業種別)



(注) 全規模の数値。

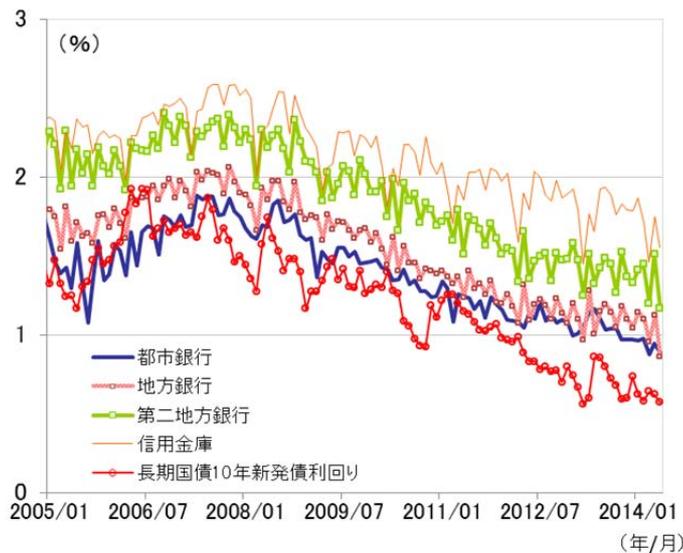
(出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

借入金利は低水準が継続する見通し

借入金利は低下が続いているが(図表7)、借入金利水準判断 DI (最近) は前回調査より 1 % pt 高い-6 %pt であった。足元の借入金利の上昇は大企業にみられたようで、中堅・中小企業

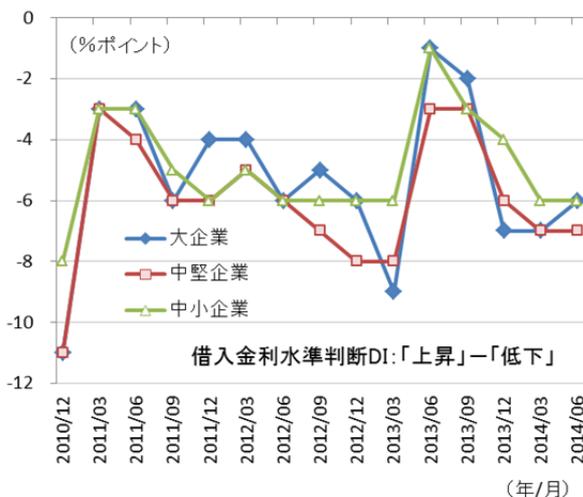
は前回調査から横ばいであった（図表 8）。また、借入金利水準判断 DI（先行き）は前回調査から 2%pt 低下しているが、こちらは中堅・中小企業の見通しに変化した影響が大きく、大企業に関しては前回調査から横ばいの水準である（図表 9）。企業規模が小さい企業の方が、借入金利水準は低下するという見通しを強くもっているようだ。企業向けの貸出残高は 2012 年の半ばから前年同月比で増加に転じていたが、中小企業に関しては回復が遅れ、増加に転じたのは 2013 年の半ばであった。中小企業向けの貸出しが積極化していることで金融機関間の競争が働き、借入金利水準が低く抑制されている（もしくは企業がそう予想している）可能性もあるだろう。

図表 7 新規貸出約定平均金利（長期）と国債利回りの推移



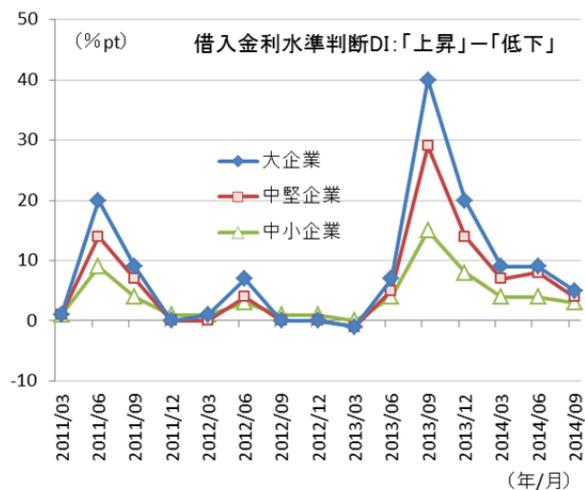
（出所）日本銀行「貸出約定平均金利」、アイ・エヌ情報センターより大和総研作成

図表 8 企業規模別の借入金利水準判断 DI（最近）の推移



（注）全産業の数値。その他前掲図表 2 を参照。
（出所）日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

図表 9 企業規模別の借入金利水準判断 DI（先行き）の推移

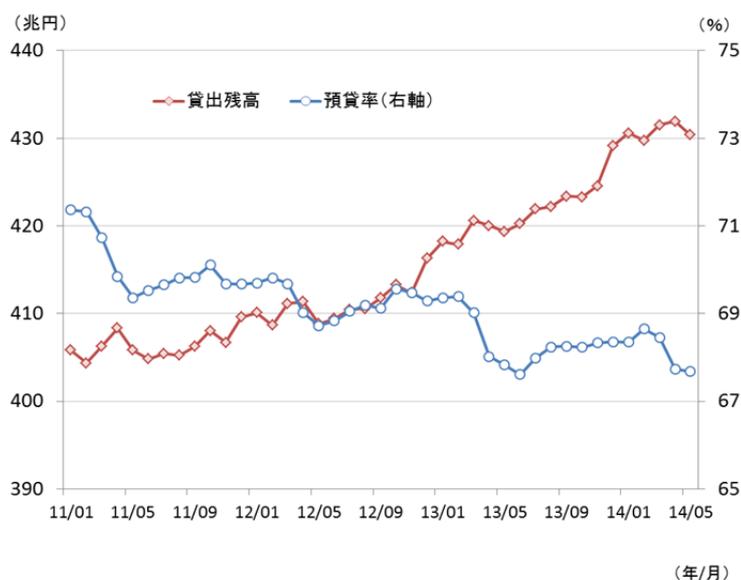


（注）全産業の数値。その他前掲図表 2 を参照。
（出所）日本銀行「全国企業短期経済観測調査」より大和総研作成

設備資金貸出残高の増加に期待

貸出金利の水準が低いこと、金融機関の預貸率が低下していること（貸出し余力がある）に加え、海外においても金利水準は低く、企業は国内外問わず資金調達しやすい環境にある（図表 10）。金融機関による企業向け貸出残高は 2012 年半ばごろから前年同期比で増加に転じているが、設備資金の貸出残高も不動産業を中心に 2012 年後半から増加に転じている（図表 11・12）。今回の日銀短観では設備投資計画が上方修正されており、今後も設備資金貸出残高の増加が期待される。

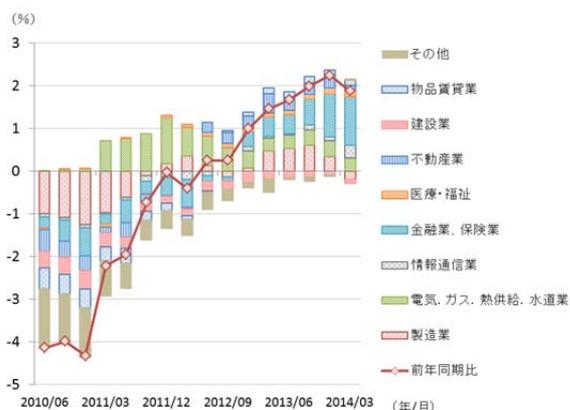
図表 10 国内銀行の貸出残高と預貸率の推移



(注) 国内銀行（銀行勘定、平残）。貸出残高は企業向け以外も含む全貸出残高。預貸率＝貸出残高÷預金残高×100。

(出所) 日本銀行「貸出先別貸出金」「預金者別預金」より大和総研作成

図表 11 企業向け貸出残高の前年同期比の推移と業種別寄与度



(注) 国内銀行（3 勘定合算）の数値。

(出所) 日本銀行「貸出先別貸出金」より大和総研作成

図表 12 企業向け貸出残高（うち設備資金）の前年同期比の推移と業種別寄与度



(注) 国内銀行（3 勘定合算）の数値。

(出所) 日本銀行「貸出先別貸出金」より大和総研作成